

・三位一体後第一主日

泉のほとり

今月の詩編 第一〇八編

どうか我らを助け

敵 からお救い下さい

人間の与える救いは

むなしいものです



神はキリストを

聖霊が弟子たち一人一人の上に臨まれた時、彼らは他の同々のことばで、神の偉いなる御業を語り始めました。世界各地から来たエドヤ人たちは自分たちが住んでいる、生まれた国の言語で話しているガリラヤの人たちを見て、呆気にとられていたのです。ペテロはその時、これは「聖霊が来られる」と既に預言者を通して約束されたことが今実現していることだと教えよした。それから「イスラエルの人たち、聞いてください」と語りかけ、主イエスについて証しし始めるのです。

このペテロの証しには大きな特徴があります。それはその証し全体に見られる用語が「神は」ということです。すなわち「神は」イエスを通して不思議な業、しるしを示された。「神は」あらかじめ、お定めになった通り、イエスはあなたたちに引き渡され、あなたたちは十字架につけて殺した。「神は」そのイエスを死の苦しみから解放し、復活させられ、イエスは神の右に上げられた。「神は」そのイエスを上とし、メシアとされたのだ、と語っているのです。行われたすべてにおいて、初めから終わりまで、またそのすべての中心に、神さまがおられることをペテロは教えています。キリストを復活させられたことだけではなく、十字架で殺されることまでも、ということなのです。

十字架につけられる前に、ピラトは上に、「私はあなたを釈放することも、十字架につけることもできません」と話しました。主は「上から与えられたのでなければ、あなたにそのような権限はない。あなたにわたしを引き渡した者たちの罪はもっと重い」と言われたのです。ピラトに引き渡され、鞭打たれ、十字架につけられることも、すべて上からのものだと見ておられたのです。そこに居させられた父を見ておられ、その御心を知り、十字架に至るまで従順でした。そこに御子の父への全き従順、信

頼が見られるのです。聖霊はそれを「信仰」と示しています。そのキリストを仰は朽ち果てるままにしておかれませんでした。復活させられ、普れを与えられたのです。

神は髪の毛一本残らず数えておられます。燕一羽も神のお許しがなければ地に落ちることはありません。すべてを知っておられ、完全に支配しておられる中に私もいるのです。十字架につけたピラトも、十字架につけるように引き渡したエドヤ人の指導者たちのその地位、権限すべて上からのものでした。しかし、彼らは上からのものを与えられた方の御心に従わず、なすべきことに従順、忠実ではありませんでした。

ペテロは「奴隷たち、心から恐れ敬って主人に従いなさい。善良で寛大な主人にだけでなく、ひねくれた主人にも従いなさい。不当な苦しみを受けても、神の御心を信じて、苦しみを耐えるなら、それは恵みです。罪を犯して打ちたたかれて耐え忍んでも、そこになんの恐れもない。しかしよいことをして、神の御心を行なうて耐えているなら、それは恵みです」と述べています。そして主は既に私たちにその信仰の足跡を残してくださいました、と証しているのです。今日の我々にも示されている信仰の足跡です。

何事にも偶然はありません。今与えられている身分、立場、場所、賜物などなど、上からのものとわきまえる信仰がなくてはなりません。私の目には思わしくない状況でも、それも「神は」と言われる中にあるのです。

主イエスの証人として使徒ペテロは「神は」と語りました。すべてを時にならして事を成す方がおられます。すべてが「神は」と言われる中にあります。私たちは神のなされる業も、時も、計り知れない、何も知りません。ただ私たちに求められているのはキリストに見られる信仰です。従順です。「神は」、また聖霊を通して、私たちを主イエスに敬う信仰へと導いておられます。

軍 役

いかなる兵士も、日常の生活の心配事に巻き込まれることなく、自分を召集した方の気に入ろうとします。

テモテへの手紙 2 一章四節

あなたは、あなたの者たちに

平和をもたらされました。

そして、

あなたの者たちを戦いへと送られます。

あなたの平和が、

この世界に来るためです。

わたしたちを、

戦う態勢が整ったものとしてくださって

わたしたちが、日々の心配事の中に

これ以上長くしばらくはそのまま

居続けないように、

むしろあなたの平和のための戦いへと

さらに自由にしてください。

どうかわたしたちを、

自分たちの事柄のために戦わせないで

あなたの事柄のために戦わせてください。

どうか

わたしたちを戦わせてください。

入隊した兵士がその指揮官に対して軍旗への宣誓をしたならば、軍の規律は、彼がもつばら兵役のこのみを考え、家や自分の仕事などを考えないように要求する。・・・我々は、聖きことのみに集中して、我々の熱意や努力を何もかも邪魔せぬようにせねばならない。

カルヴァン

R・ポーレン著 「祈る」より

楠原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○古村牧師は、今日の午後行われる韓国ソウルのサラン教会日本語礼拝部の礼拝と、明日から二七日まで行われる説教セミナーで奉仕するため、出張です。

○第一礼拝後、ロビーでコーヒーサービスがあります。園舎二階のリズム室では、ぶどうの会が開かれて、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。それぞれ覚えてご参加下さい。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○二八日(金)朝一〇時半からシオンの会があります。ハイデルベルク信仰問答の問三、五、四二を学びます。新しい方々を歓迎します。

○二九日(土)午後二時半から、ピアノ教室の発表会が礼拝堂で行われます。

○八月一日から五日まで行われる姉妹教会のコイノニアキャンプのために、献金をお願いします。事務所のカウンターに置いてある献金袋を用いてお献金ください。

○禁烟音楽伝道師は本日は日本基督教団横浜港南教会で、二七日木曜日は富山レディース&メンズランチョンでコンサートの奉仕をします。お祈りください。

四国だより

(前号の続き)

礼拝としての学びはみ言葉を土台とする「小さなグビデの会」として楽しく学べる時間を用意。この計画にクリスマスチャン・ホームで幼少期から育ってきた中学生・高校生の皆さんが喜んで賛同してくださり感謝でした。

その後の大人の礼拝の時間は近藤咲良さんは自由出席として一年間でその差を埋める事を本人が喜んで了解しております。この「グビデの会」は主の啓示によるものでした。中学生・高校生の皆さんの信仰にふれて良い成長を主が与えておられます。

次は執事の任命式ですが、四月八日が延期され、四月二十八日に執り行われました。任命式では一人ひとりに按手をもつて祈り、各日も主の御愛に応答するかたちで行われ、主のご臨在豊かな式典となりました。全てのことを主の啓示どおりに行っております。間違いない様に深く祈った上にも祈りを重ねひたすら御聖霊のゴースインを賜って一歩ずつ前へ進んでおります。五月にも拘らず初夏の様に暑い日が続いております。

品川教会では八月のコイノニア・キャンパに向けての様々なご準備で、どんなにか皆様方がお忙しくされておられるかとお察し申し上げます。

主の素晴らしいご臨在のもとで皆様の主の導き栄光の輝きに包まれ最高の時をお過ごしになりますように、深き感謝をもってお祈り申し上げます。

シオンフルゴスベルチャーチ

田端良枝

聖書の会

6月26日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「イエスに触れようとして」

マルコ3章7節〜12節

菊池美穂子 副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「望むだけ与えられた」

詩編ヨハネ6章1節〜21節

黄允湜 副牧師

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讚美歌 讃21127番 67番

説教「キリストの他に救いはない」

聖書使徒4章5〜12節

説教者 古村和雄 牧師

●第二礼拝(午前11時10分)

讚美歌 491番 238番

詩篇 108篇

説教「安らぎを得る道」

聖書 マタイ11章25〜30節

説教者 黄允湜 副牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 127番
67番

説教 「この曲がった時代から救われよ」

聖書 使徒2章37節～47節(新約P216)

司式 宮間 彰広 兄

説教者・聖餐司式 黄 允湜 副牧師

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 J.S.バッハ

○ 讃21 127番

1. み恵みあふれる 主をほめたたえよ
みわざを忘れず 賛美をささげよ
主に求める時 主は答えられる 慰めをもって
2. 求める人には 主は耳傾け
畏れる人には み守り写える
主を仰ぐ人は 苦難の単にも 喜びを歌う
3. 味わい見つめよ 主の深い恵み
とこしえの代まで 変わらぬ憐れみ
みもとに身を寄せ 畏れる人には
欠けるものはない アーメン

○ ピアノによる讃美

「つかえる よろこび」 K.カイト

○ 67番

1. よろずのもの とわにしらす み父よ
いまめぐみを くだしたまえ
み名をほむる われらに
2. ひととなりし すくいのみ子 主イエスよ
刺きつるぎの みことばもて
しめたまえ まことを
3. いとつよき なぐさめぬし みたまよ
わがころを おさめたまえ
琴よりのち はなれて
4. 三つにまして ひとりにます みかみよ
み名のさかえ ほめたたえて
とこしなえに したがわん アーメン

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 67番 140番

詩篇 第108編(旧約P949)

説教 「救い主の秘密」

聖書 マルコ1章21節～28節(新約P62)

司式 宮間 彰広 兄 聖餐司式 黄 允湜 副牧師

説教者 菊池 美穂子 副牧師

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 G.バーム

○ 讃美歌 67番

○ ピアノによる讃美

「つかえる よろこび」 K.カイト

○ 聖歌隊による讃美

「さ迷う人々」 讃美歌239番より 山元宮雄 編

さまよう人々 たちかえりて
あめなる御国の 父を見よや
罪とがくやめる ころころは
父より与うる たまものなれ
さまよう人々 たちかえりて
父なるみかみの みまえにゆき
まことの悔をば いいあらわせ
世人は知らねど 知りたまえり
さまよう人々 たちかえりて
主イエスの御許に とくひれふせ
わが主は憐み み手をのべて
こぼるる涙を 拭いたまわん
さまよう人々 たちかえりて
十字架の上なる イエスをみよや
血しおの滴る み手をのべて
「生命をうけよ」と まねきたもう

○ 讃美歌 140番

聖餐曲 「天に在します我らの主よ」 R.H.カン

後奏曲 「マエストロ」 J.P.スケリング

聖餐曲 「野のユリへ」 E.マック ドーモ

後奏曲 「マエストロ」 J.P.スケリング

※ 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおいを毎週お持ちください。